

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里 (そよかぜ)		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4番32号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者の表面的な声や状態だけではなく、想いや意向の把握に努め、ごく自然な態度で接する事ができるように心がけています。  
業務や問題対応のケアに追われるのではなく、常に「敬うこころ」を忘れずに、「笑い」「楽しみ」「豊かな心」で「その人らしく生き生きと生活して頂くこと」を共通の視点としております。  
「尊厳」「安心」「持てる力の発揮」が出来るようなお膳立てで、利用者の方が安全に健やかに、今まで培った馴染みの暮らしが地域の中で継続していけるように、また、一人ひとりの真意に気づけるように日々研鑽、努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502389&amp;SCD=370">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502389&amp;SCD=370</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年7月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「敬う心、尊厳ある暮らし」を日々の申し送りや全体会議の場で再確認し、地域の中でその人らしく当たり前暮らし続けることの支援を柱に地域との関係性を重視した取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	グループホームは町内会に加入、又運営者は役員も務めており地域との付き合い・交流を図っている。子供会、小学校との相互行事への招待や参加、廃品回収への協力等を通して地域の一人としての交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校から小学生がボランティア活動に来ており、多くの理解をしていただけたのではないかと考えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者へのサービスの実際や取り組みの状況を報告し、質問には具体的かつ丁寧に答える等積極的に話し合っている。いただいたアドバイスや意見をサービス向上に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題が生じた時は担当者と協議し解決に向けての支援を受けている。地域包括センターが主催する研修や勉強会には積極的に参加し、日ごろから協力連携を大切にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けた手引きをユニットに掲示しているほか、全体会議などの場も活用することで意識を高め、ケアに取り組むようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や申し送りの席上、勉強会やミーティング等を実施し、法の理解、遵守に向けた取り組みを行っている。また小さい傷・痣等でもインシデントを発行、記録に残すことで、原因と対策の究明を行い虐待が見逃ごされることがない様防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ利用者や家族に「成年後見・任意後見制度」や地域福祉権利擁護事業について情報提供を行っている。21年5月には法定後見（補助）の申し立てを行い、現在利用に至っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用に向けて事前に見学や相談等面談や話し合いを重ね契約時には十分な時間を取って重要事項説明で確認しあい、同意を得るようにしている。契約解除に至る場合でも今後の方向性の相談と受け皿探し等の対応に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを察し、利用者本位の満足いただける運営を心掛けている。面会時や家族会等でも意見や要望を伺い振り返りや日頃の運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の意思疎通を良くし何でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。ホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）を機会あるごとに提唱し意見等を吸い上げ運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年功序列にこだわらず、個人個人の努力や実績、勤務状況に応じた評価で、やりがいや向上心を持って働ける職場環境にある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自らの生涯学習計画や自己学習への支援を事業所より申し出たが全員には浸透していない。しかし、指名することで外部研修へ参加、学んできたことを発表してもらい、全員への共有化を図り、働きながらのトレーニングに励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に加入、連絡会や勉強会に出来るだけ多くの職員が参加。そこでの交流、意見交換によるネットワーク作りを行い、サービス品質の向上に努めている。行事や発表会等での相互交流も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や求めている事を聞き、どの様な対応が出来るか相談に乗っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族のご苦労や不安、求めていること等を十分時間をかけて聴くようにしている。ホームとしてどの様な対応が出来るのか、場合によっては他に繋ぐなどしながら相談に乗っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人や家族の思いや状況等を把握し、改善や安心していただける支援の確認を行い、信頼関係が築けるよう努力しながら必要なサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に出来る場面を設け、互いに教わりながら喜怒哀楽を共にしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時居室で一緒に過ごしていただいたり、居間で職員、他利用者も交え楽しい会話のきっかけ作りをしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人来訪時は歓迎し継続的に交流が続けられるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わり、会話等のサポートをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も近況を尋ねたり了解を得て訪問も行っている。利用中に培った関係性を大切に相談に乗ったり機関に繋げたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望、思いを傾聴、また日々の行動や表情から想いを推し量りアセスメントし、本人本位、満足いただけるよう検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時にはご家族や関係者から情報収集している。利用後も機会あるごとに本人や家族から聞き取り、聴くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をありのまま観察し、出来ることに着目した支援と、センター方式アセスメントの活用でより理解していく様に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でアセスメントを行い入居者が一日を安全に安心して過ごせるような介護計画としている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分散することなくまとまっており、職員全員がよりよい支援を行えるよう情報の共有を図り、個人個人に合った支援の実践や次の介護計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診介助や外出支援、外泊等の必要なサービスに柔軟に対応、個々の満足が得られるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニ、理容室、周辺施設、町内会への協力依頼や働き掛けで地域との様々な接点を見つけ地域の一員として安全に安心して豊かな暮らしを楽しめるよう協働で支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様希望の病院にも対応しており、ホームの協力医療機関だけでなく、本人のかかりつけ医との関係も重視した受診補助を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームドクター医院の看護職員は情報提供や相談に迅速に対応して下さり、個々の利用者が安心して適切な医療を受けられるような協働体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時「介護要約」で情報提供を行い、適切な治療が受けられるように早期退院に向けて情報交換や受け入れ態勢の準備等協働を図りながら関係作りを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族が安心してサービス利用が出来るように重度化した場合や、終末期に向けてホームでできる対応の限界等早くから話し合いを重ね、関係者や機関と連携を図りながら繋げるなど支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が救急救命講習と実技指導を受け応急手当や初期対応等実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は講習会への参加や訓練を通して避難・誘導できる技術を身につけている。また防災運動会への参加や日常的な交流を通じて、地域の方の理解や協力体制の強化にも取り組んでいる		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室で過ごしたい方でも引きこもりにならないよう声掛けを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の更衣時など利用者の希望する服装を伺うなど自己決定出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日など利用者の希望に沿えるような形で散歩等を提案、支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時のお化粧品や洋服選びの際、迷っている時は一緒に行い、その人らしく季節に合ったおしゃれが楽しめるよう援助している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けを共同で行ったり、日常の会話から希望する献立を探り出し、買い物に同行していただいた時に希望する食材を選んでいただくようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人が好まれる飲み物を提供するよう心がけている。また、一人ひとりの食事量や水分の摂取状況を生活記録に記入し、職員が情報を共有しながら食べるスピードや、その時の状況に応じて、一日の必要量が確保できるよう代替食、補食等の対応でバランスがとれるように支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを声かけし確認している。義歯の方は定期的に洗浄・殺菌を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がはっきりしない方は時間や習慣を把握し、個別にトイレの声かけ、誘導を行い、個人個人の排泄パターンに合わせたパットやリハビリパンツの検討、夜間の対応、声かけ誘導等でトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をきちんと摂取していただき、繊維質の多い食材の提供や体を動かしていただく働き掛けで自然排便につながるよう支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2～3回を目安として入浴の声かけをしている。入浴時は歌を歌ったり会話を楽しんだりしている。拒否あったら時間おいたりする		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から夜にかけて活動予定を入れず、就寝に向けてのリズムを整えている。不安等で眠れない場合には温かい物を提供したり、不安を傾聴するなど安心感を誘うようにしている。一人ひとりの生活習慣やその時々状況に合わせて気持ち良く安眠できるよう、特に外出や行事の後は気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの薬の目的や効果・副作用等を把握し医師の指示通り内服ができたか、また症状の変化の確認に努め、医療との連携を図りながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、出来ることを把握し、家事や買い物、庭の手入れ等活かせる場面作りで張り合いや感動を共有している。日々歌や会話を楽しんでいる。天気の良い日は散歩や行事等で外出を楽しみ、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事故などが起こらないように見守りながら利用者が楽しめるように配慮している。お墓参り、ふるさと訪問等ご家族の協力を得て本人の気持ちに応えるよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方やご家族より希望があった場合は小額を手元にもってもらい、ご自身の財布から支払う事で、小銭の管理や社会性の維持にむけた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人から電話や手紙が来た時に安心したやりとりができるよう配慮支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節ごとの飾り付けや行事等の写真、絵画、書道、縫いぐるみ、樹木や生け花等で落ち着ける雰囲気作りを努めている。室温や採光にも配慮し強い日差しの際はカーテンでの調節や心地よい音楽、家事の音、ご飯の炊ける匂いや調理の色々が深い生活感や季節感を感じながら居心地良く過ごしていただけるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に椅子やソファを置き独りになれる場所や気の合う人同士でくつろげる空間を作り、安心して会話等を楽しめるような居場所作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス利用前から家で使い慣れた家具等を居室に置いて、いつでも居心地良く過ごせるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から共用部分への移動が安全にできるよう手すりの設置や足元には妨げとなるものを置かない。お手洗いは夜間も照明をつけたまま「わかる様に」し、自立への配慮と安全な環境作りに努めている。		